



モア通信 No.07

2014年1月25日

“豊かな社会”を考える

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

モアネット運営委員 岡野 英一

今、日本社会はバブル経済崩壊後の「失われた20年」を過ぎても、確固とした展望は確立していません。「格差社会」、「無縁社会」、「社会的排除」等、今日の社会局面を映し出す言語は、今も様々な社会的課題を突き付けています。“グローバル化”あるいは“脱工業化”といわれる流れの中で、胸のつまりそうな状況があります。

先の参議院選挙に示されたように、再び“日本を取り戻す”ための祈りにも似た願いが示されたのも、この国の先行きに光明を見出したいと思う人々の思いがあったからではないかと思います。

一方、このような日本社会の奥底で少しずつ、亀裂の深まりも進んでいるように思えます。それは私たち一人ひとりにも鋭い問いかけをしてきているように感じます。環境問題やエネルギー確保のあり方、少子高齢化と少規模家族化の中での社会保障のあり方、防衛・外交・平和政策のあり方……。たぶん後世において重要な転換点であったと評される時期でもあるのが、今ではないかと考えます。

このような今、社会的亀裂を混乱と混迷へと導いて日本社会の矛盾を更に拡大させるのは決して賢い選択ではないと思います。そのならないために一番大切なものは何か？それは“民主主義力”だと思います。一説に民主主義には自由主義的民主主義と共和主義的民主主義があるそうで、自由主義的民主主義は物事を相対的に捉え、数の多いほうを優先する。(多数決主義)、共和主義的民主主義はいろいろな意見を様々に戦わせ、ある一定の合意に近づける(合意主義)だそうです。こうしてみたとき、いま私たちに必要なのは互いに相手を尊重しながら、自分の確固とした意見を持って意見を戦わせる姿勢ではないかと考えます。社会のあり方を考える主体者はそうすることによって生まれますし、多く理解と納得の力が社会づくりのエネルギーへと転化していくのです。

今夏、カナダに行く機会に恵まれ、ケベック州を訪れました。そこは元フランス領で、英仏の戦いで英国が勝利し、カナダに組み込まれました。今も独立の運動もある地域です。公用語はフランス語ですが、驚いたことにすべての車のナンバープレートに、「私は忘れない」とフランス語が刻まれていました。それを見たとき、歴史の重さと自らへの誇り、それを認めあう社会の力をそこはかとなく感じました。

今だからこそ、格差を縮める努力をする社会、人と人との絆が強い社会、社会的な排除のない社会、国籍や出自による差別のない社会、さまざまな個性や違いを尊重し認め合える、本当に豊かな社会を目指して、相互に理解力と共感力を養っていきたいと思いますし、モアネットの取り組みはその力になると信じています。

<総会の様子>



共同代表に就任した柴松枝さん

<講演会>



勝部さんのおはなし

<ワークショップ>



グループワーク。どうしたら本人が元気になるかなあ…

総会報告

2013年7月6日、キャンパスプラザ京都において、第8回総会が開催されました。

2012年度活動報告と会計報告についてはともに承認されました。内容については5, 6ページに掲載していますのでご覧ください。

続いて、2013年度事業計画案と予算案が読みました。今年度の活動の強化として、関係機関とのネットワークを充実させること、さらに、モアネットの養成講座やさまざまな媒体を通してこの活動を広く知ってもらい、外国籍住民への理解と支援の輪が広がるように努めたいと発表され、事業計画・予算案共に承認されました。

次に、役員改正案が発表されました。共同代表であった琴基都氏が亡くなられたことにより、在日本朝鮮人総联合会より紫松枝氏が推薦され、承認されました。

最後に、運営委員の岡野英一氏より、外国人福祉委員活動実施要項の、今回追加された「活動に伴う費用負担に関する内規」について説明され、今後さらに活動が活発化するように支援していきたいと締めくくって下さいました。

講演とワークショップ

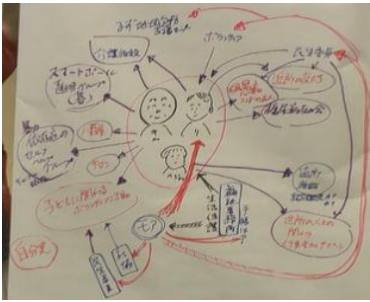
豊中市社会福祉協議会地域福祉課長 勝部麗子氏

「排除しない社会づくり～人間力を活かして助け合える地域を目指そう～
豊中市社会福祉協議会の実戦から」

第2部では、豊中市社会福祉協議会で、孤立しがちな方へ、行政・専門職・地域が一体になった支援ネットワークを長年かけて築いてこられた勝部麗子さんにお話をいただきました。

豊中市では2004年から、大阪府の地域支援計画の補助金を受けて、社会的援護を必要とする人(制度の狭間に陥っている人)に対して、専門に支援していくコミュニティソーシャルワーカーを配置しました。地域では、問題を抱えているだろう家や家族のことに気づいても解決する術を知らず、やむを得ず「見て見ぬふり」をするということがありましたが、この制度ができたことにより、地域の人が問題をコミュニティソーシャルワーカーに相談し、支援に結びつけることができるようになりました。また、課題が複雑であれば、行政を巻き込んで検討できる仕組みを構築しました。地域力を向上させるために、キーパーソンである町内会長・民生委員・老人福祉員や地域ボランティアが研修を受け、地元住民の相談に対応するためのスキルをつけます。それによって、地域の中で、次はこの人たちの問題を考えよう、支援しよう、というふうに、どんどん問題解決に向けて意欲が出てきているとのことでした。

このようにして、生活に困っている人は、「しんどい」ということとを周囲に言ってもいいんだと思える社会づくり、地域の課題を社会の課題としてともに考え、孤独や孤立のない社会づくりについて、勝部さんから力強いお話をいただき、同じ主旨で地道に活動が続けている私たちに、今後の方向



こんなふうに図で表しました



グループ発表



勝部さんからコメントをもらいました

性を考える上で大きな示唆を与えてくださいました。

次に、地域で孤立している在日コリアン家族を想定し、モアネットが地域や関係機関と連携してどう支援できるか、というワークショップを行いました。パチンコ依存で、妻に暴力をふるう父、病気と夫の暴力に耐えながら家族を守ろうとする母、軽い障がいを抱えるも母を手伝う娘。母が耐えきれず福祉事務所に相談し、そこからモアネットに連絡が入ったというケースを想定、グループに分かれて、家族が孤立せず、元気になる方法を考えました。父親の暴力の原因が、仕事を失い心が満たされない焦燥感からだとすれば、父親自身が、好きなことを活かし、地域に必要なボランティアに参加して、社会から求められる存在になる。そうすれば、自尊心が回復し、妻への暴力が軽減する。娘も家族の関係以外に、作業所などの就労によって、誰かの役に立つことに喜びを感じてもらいたい。それらにより、母が治療に専念し、また介護サービスを受けて新たな人間関係を構築する機会を作ることができないだろうか。参加者からさまざまな意見を出していただき、勝部さんからまとめていただきました。

外国人福祉委員が、困っている家族に寄り添って思いを受け止め、他機関と連携することにより、地域のニーズとマッチングさせながら支援する。その課程を通して同じ悩みを持つ人たちの活動の場を提供するなど新たな仕組み作りにつなげることが、社会のセーフティネットとなり、人がつながり、地域が元気になるのだと教えていただきました。

市民活動団体
からの

▲訪問活動の様子

一言メッセージ

みんなに
伝えたい!

【問合せ】
京都外国人高齢者・障がい者
生活支援ネットワーク・モア
☎681-2721 FAX681-2722

国や文化が違っていても
自分らしく生きてほしい

私たちの団体は、南の東九条地域を中心に、地域で見守り活動などを担っている民生委員・児童委員や老人福祉員の皆さんなどと協力し、市内で暮らす外国籍の方や外国文化圏に属する方への支援活動を行っています。

私たちが安心して生きていくためには、年金や医療、福祉、介護サービスなどが必要ですが、言語や生活文化が違ふことにより、利用可能な制度やサービスなどの情報が十分に届かず、特に高齢の方や障害のある方が孤立しがちになります。

訪問や相談を通してそうした方々の状況を把握し、その人に合った支援を行うことが、私たちの役割です。国や文化が違っていても自分らしく生きてほしい。そのためには、地域に密着した支援が必要で、私たちは、関係団体や機関と連携した活動することにも、この活動への理解と、参加・協力を呼びかけています。支援の輪が広がることによって、市民一人一人が安心して生活できる地域づくりを応援できればと思います。

京都外国人高齢者・障がい者
生活支援ネットワーク・モア
キム ジュマン
金 周萬さん(写真①)
むらき みとこ
村木 美都子さん(写真②)

「市民しんぶん」でモアの活動内容が掲載されました！

事務局 村木美都子(むらきみとこ)

「市民しんぶん」全市版に載せていただいた後、さまざまな反応がありました。こんな活動があるんやね、と友人から連絡があり、外国籍市民の抱えている生活課題や、モアの活動意義について、少しは知ってもらえたようです。

日本人にとって、在日外国人、とりわけ、在日コリアンが日本に多く住んでいること自体知らない方がまだまだ多いようです。記事を読んでくださった日本人が、身近におられるかもしれない在日外国人に目を向け、興味を持ち、知るきっかけができ、直接つながることにより、互いのちがいを理解し尊重できる社会を作っていくことにつながればと思っています。

また、この記事を読んで、在日コリアン高齢者ご本人から電話で相談を受けることで、新たな支援が始まったケースもありました。

私たちの活動が広がるだけでなく、一人ひとりの中に、地域に住む、さまざまな背景を持つ人たちを互いに気遣う暖かい気持ち広がっていくことを願っています。

京都モアネット福祉委員活動を通じて思うこと

外国人福祉委員 姜 主淳(かん じゅすん)

福祉委員活動に従事して5年目を迎えた昨今、実践を通して自分自身の思考の中からも、このことの意義とか、あり方とか、慈愛精神の貴重さ、人の尊厳、励ましの中でケアを受ける対象者の感謝とかが、自身の老後とその時の環境を置いて考えるようになる。

戦後68年の歳月の中、在日一世は殆どがこの世を去り、現在の在日同胞の高齢者・障害者は、二世が主流を占める。植民地時代から現在に至る対象者たちは、有形・無形の差別の中、同胞間の相互扶助はあったものの、信じられるものは、只、自分か、家族との考えが少なからずあったと思える。

過去、年金問題や行政の見守りが多く漏れている中、民族性の我慢強さと、ねばり、人なつっこさ、朗らかさ、おおむね人に頼らない頑固さも多少あったりして、バイタリティーに家族を養い、民族の尊厳も持って、在日の荒波に揉まれて堂々と生活を営んできた。このことが、訪問して傾聴し、見守り、用事の世話、書類の代書、アドバイス、話し相手をしていると、多少の自慢とともに随所に現れる。

今、対象者たちの多くは、程度の差こそあれ、日々、身体的衰えの苦痛、疾病との闘いの中にあり、殆ど予備知識が希薄な中、漠然と老いの真っ只中にあるといえ、「子どもたちに迷惑はかけられへん」と気遣う人がかなり多い。まだ、在日の中年層には、儒教思想のよい面での、孝行子息らも多く、大抵はその恩恵を受けている対象者が比較的に多く、そうでない場合もしばしある。

また、デイサービスに通う人と通わない人とが二分していて、たいがいの場合それぞれ自分の意志で決めている。「身動きができなかった時はたのむで」と言う人、まだ先があると漠然と生活を送っている人、趣味を持ち、健康管理に努め計画的、前向きに余生を楽しんでいる人、「はよ、死にたい」と漠然と生きている人、「あんたも忙しいのに、こっちのことは心配せんでええで」と自分で覚悟を決めている人、わがままで老いを顧みず「事故」や「事件？」を繰り返して迷惑をかけている人等、人生の諸先輩方に接し、ケアを行うには、なまじの考えや対応では気持ちをもらえない。

これから私としては、訪問を通じて、人としての尊厳、生を全うすることの意味、生きることの術というか、実際の生活全般におけるアドバイス等、精神的なものも含め、対象者の目線で真摯に、ケアを実践していくよう肝に銘じ、模索していきたいと思います。

一人暮らし高齢者の訪問事業について

古川 善章(京都市陶化地域包括支援センター)

京都市では、2012(平成24)年度から、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるようにと、65歳以上の一人暮らしの方を、高齢サポート(地域包括支援センター)の専門職が訪問する事業を行っています。訪問し、状況把握をすることで、支援が必要な高齢者には福祉サービス等の適切な支援に繋がるとともに、高齢者を取り巻く地域の関係機関と地域住民が連携し、地域全体で高齢者を見守るネットワーク体制の確立に向けた仕組み作りを進めていくものです。

昨年9月1日の外国人福祉委員さんへの研修では、伏見区内の民生委員の方も同席され同事業の説明をさせていただきました。民生委員の方からも具体的な事例などのお話がありました。また、民生委員の方から「見守り活動はやっぱ信頼関係が大切ですね」という意見や、外国人福祉委員の方から「私たちもできる見守りは行っていきたい。同意された名簿を外国人福祉委員にももらえないか」など積極的な意見がたくさん出されました。一人暮らし高齢者の生活上のリスクとしては、孤立化、健康状態の把握の問題、災害等緊急時の対応などがあり、普段からの見守りや相談場所があることで少しでも不安や孤立感が解消されることが望めます。

今後の高齢社会を取り巻く環境の変化を考えると、より身近なところに日常のつながりが必要です。東九条地域においては独居率が高いこと、外国人障害者・高齢者の割合も高いことなどから、民生児童委員協議会、社会福祉協議会などの地域福祉組織や、外国人福祉委員による見守り活動ともより一層、連携・協力していくことが重要です。高齢サポート(地域包括支援センター)は地域の総合的な相談窓口ですので、お気軽にご相談いただければと思います。

2012年度の活動(2012年4月～2013年3月)

1. 外国人福祉委員派遣事業

電話による相談や関係機関からの依頼に応じて、自宅を訪問し、安否確認や話し相手・傾聴、外出支援など、既存のサービスでは行えない支援を行いました。また、他機関がかかわっている場合は、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら見守りを行いました。本年度は、19 人の外国人福祉委員がのべ 801 件の生活支援活動を行いました。

2. 外国人福祉委員の研修

外国人福祉委員お茶会(学習会)として、9 月に地域包括支援センターからの話、11 月に民生児童委員・老人福祉委員活動についての話、3 月に認知症サポーター研修を、関係機関の協力を得て行いました。

また、2 月には、関係機関の協力をいただき、外国人福祉委員養成講座を行いました。在日コリアンの歴史と現状、モアネットの取り組みについて報告し、関係機関職員と外国人福祉委員を交えてグループワークを行い、新たに 10 人福祉委員登録を行いました。

そのほか、京都市民活動総合センターに情報発信し、2 人が個別で研修を行い外国人福祉委員に登録しました。

3. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

10 月に第 6 号通信を発行し、総会報告、活動報告等を掲載しました。

12 月に、京都市保健福祉局長寿福祉課と話し合いを持ち、モアネットの現状報告と課題について意見交換を行いました。これを受け、長寿福祉課の協力により、1 月に、活動紹介パンフレットと養成講座のチラシを、京都市各区役所・福祉事務所、地域包括支援センターへ送付することができ、活動の周知につなげました。

また、7 月「東九条地域の医療と福祉のネットワークを発展させる連絡会」で、2011 年の実態調査報告とパネルディスカッションを、また 2 月には南区包括支援センター運営会議で、モアネットの活動報告を行い、関係機関に対して外国人高齢者・障害者への理解と支援の必要性、モアネットとの連携の重要性等を伝えました。

5. 他の外国人支援団体との連携

12 月の「ハナネット研修会」で、2011 年の実態調査報告とモアネットの活動報告をし、在日コリアン支援グループと交流を持ちました。また、日常的に京都市内にある外国人支援団体との情報交換を行い、外国人支援のネットワーク作りに協力しました。

2012年度支援内容内訳

	対象者		96
	外国人福祉委員		19
	活動件数		801
	延べ件数		1773
福祉サービス紹介・指導	保険 介護	受付相談	2
		サービス利用・内容	20
		その他	15
	生活保護		5
	高齢者福祉		3
	障害者福祉		8
	その他の保険福祉サービス		6
	小計		59
生活・生きがい等	生活相談		18
	生きがい相談(趣味活動)		581
	心配事相談		83
	精神相談		6
	安否確認		801
	言語・コミュニケーションの問題		12
	民族文化・歴史等の問題		62
	その他		0
小計		1563	
健康関係	健康相談		120
	栄養食事関係相談		40
	病院受診・入退院手配など		0
	医療通訳		0
	その他		0
	小計		0
関係機関との連絡調整	区役所	福祉事務所	8
		市民窓口等	0
		その他	3
	自治会(その他地域団体)		0
	民生委員/老人福祉委員		4
	社会福祉協議会		1
	ケアマネジャー・ヘルパー等		59
	小計		81
対応方法	通報先	病院・診療所への連絡	1
		ケアメなど関係者連絡	1
		消防車出動要請	0
		警察への通報	0
	急病の世話		1
	家事の世話など		31
	その他		0
	小計		34
合 計		1773	

京都モアネット役員

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア収支決算書

【顧問】

小澤 亘(立命館大学教授)

王 清一(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)

金 学福(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)

田中 宏(一橋大学名誉教授)

鄭 禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)

水野直樹(京都大学人文科学研究所教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)

金 周萬(韓国民団京都府本部福祉事業推進委員会委員長)

紫 松枝(朝鮮総連京都府本部常任委員・権利福祉部担当)

朴 錫勇(札の辻診療所所長、NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ副理事長)

【運営委員】

金 秀煥(朝鮮総連南山城支部組織部長)

金 洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

宋 基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)

南 珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

岡野英一(龍谷大学教授)

加藤博史(兼任)

紫 松枝(兼任)

金 周萬(兼任)

朴 錫勇(兼任)

【会計】

金 洋子(兼任)

【会計監査】

崔 忠植(希望の家カトリック保育園園長)

【事務局長】

金 秀煥(兼任)

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	金 額		
1、収入の部			
会費	36,000		
助成金	2,240,000		
寄付金・賛助金	1,168,626		
雑収入	40,000		
預金利息	65		
当期収入合計 (A)		3,484,691	
前期繰越差額		▲587,449	
収入合計 (B)			2,897,242
2、支出の部			
1)福祉委員派遣事業に係る経費			
・報酬費	801,000		
・上記に関する交通費	261,480		
・通信費	289,260		
・事務費	26,293		
・賃借料	600,000		
・水道光熱費	137,467		
・雑費	11,541		
・消耗品費	798	2,127,839	
2)福祉委員養成講座	52,166	52,166	
3)啓発事業			
・通信費	4,083		
・雑費	1,842	5,925	
当期支出合計 (C)			2,185,930
当期収支差額 (A)-(C)			1,298,761
次期繰り越し差額			711,312

〒601-8007 京都市南区東九条北河原町5
 京都外国人高齢者・障がい者生活支援
 ネットワーク「モア」(京都モアネット)
 TEL075-681-2721
 FAX075-681-2722
 Email kyotomorenet@yahoo.co.jp
 郵便振替口座:00990-4-314429
 加入者名:京都外国人高齢者障害者
 生活支援ネットモア

編集後記

▼年内に発行する予定が、随分ずれ込んでしまいました…。ようやく形になってほつとしています。▼昨年七月の総会、盛り上がりました！全国を走り回って、社会で孤立する人をなくすためのしくみ作りをしてもらえる勝部さんの、パワフルで超明るいお話とワークシヨップに、会場は笑いでいっぱいになりました。▼今の世の中、ひと昔前の弱肉強食に向かっているのでは…と思えてなりません。そんな暗い世の中をひっくり返そうではありませんか。▼互いをぶつちやけてつきあい、一緒におもしろいことを考えて、元気に生きよう。そんな、型にはまらない楽しい取り組みをモアネットで考え中。▼三月二十九日(土)福祉委員養成講座・兼啓発講座は「寸劇」を予定しています。是非お越しを！(み)